

5. 圏域の目標としていく社会像について

本研究会や各部会の議論及び中国経済連合会の効果分析検討会の検討状況を踏まえるとともに、ポストコロナの新しい生活様式や世界的な目標である SDGs、カーボンニュートラルなどの価値基準を見据え、また今後の技術革新を想定し、これからの圏域 8 の字ルート整備を通じて、目標としていく社会像及びその具体的なイメージを次のように整理します。

(1) 目標とする社会像

縮まる時間

- 時間距離の短縮で「ひと」と「もの」が自由に行き交う活力あふれる圏域
- 暮らしの安全性、安心感が向上する、命をつなぐ圏域

深まる交流

- 多様な人と出会い、つながり、様々な交流が体感できる圏域
- 多彩なライフスタイルを創出する、生きがいが充実する圏域

広がる未来

- 都市機能アップによる拠点性の向上と新たな連携の創出ができる圏域
- グリーン社会の実現に貢献する持続可能な圏域

○社会像のイメージ



(2) 具体的なイメージ

縮まる時間

- 人々が豊かな生活を実感できる
事業活動の時間短縮が図られ、様々な生産活動が活性化し、GRP（域内総生産）が高まる。
- 希望の就職、転職ができる
企業立地の進展や、事業活動の拡大により就職先の選択肢が増え、人々の希望に沿った暮らしが実現する
- ワークライフバランスが充実する
通勤時間の短縮や事業活動の円滑化により働く人々の生活に余裕が生まれ、余暇活動や自己啓発の時間が増える
- 地産地消、食料自給が進む
圏域内の流通が促進され、地元産物の利用、消費が促進される
- 観光地をじっくり巡れる
移動時間が短縮され観光客は多くの観光地を周遊することができ旅行の満足度があがる
- 多くの観光客を目にするようになる
観光客の移動の時間短縮により滞在時間が延長され旅行消費が増加する
- 災害に強いまちになる
渋滞緩和や高速移動が可能となり、安定した救急輸送、災害時の避難ルートや救援活動が確保され、人々の安全・安心につながる



深まる交流

○様々な自然や文化を体験できる

圏域内外の人にとって、豊かな自然環境（海・山・湖など）や多様な文化伝統を身近に感じる機会が増え、ふるさと愛を醸成し、また U・I ターンを検討するきっかけを作ることができる

○様々な地域で交流が生まれる

人々の日常の活動範囲が拡大することにより文化、芸術、スポーツ、教育等様々な交流が生まれる

○観光客にとって「第二のふるさと」になる

観光客の滞在時間が延長されることにより圏域住民と様々な交流が生まれ、繰り返し圏域を訪れる観光客が増える

○圏域の色々な施設が自由に使える

行政区域を越えた様々な施設の共同利用の可能性が高まる

○大規模なスポーツ大会やイベントが身近になる

複数施設を利用した全国規模のスポーツ大会や大型イベントの誘致が可能となり全国各地との交流が促進する



広がる未来

- 関係人口が拡大する
様々な地域からの来圏者と地域住民との活発な交流が生まれ、新たな地域づくりの担い手をつくることのできる
- 新たなビジネスが始まる
これまでにない圏域外の事業パートナーとの連携が生まれ、新規事業の創出や設備投資、新たな企業進出の可能性が膨らむ
- 空港・港湾・駅に新たな賑わいが生まれる
港湾・空港・鉄道など既存インフラの新たな活用が促進され、様々な圏域外との交流や取引が拡大する
- 柔軟な働き方が可能となる
ワーケーション、二拠点居住等の柔軟な働き方の受け入れ拠点となり、多様なライフスタイルを実現する
- グリーン社会が実現する
移動や物流の時間短縮により二酸化炭素排出量が抑制され、環境に配慮された社会構築が進んでいく
- 東アジアのゲートウェイ機能が充実する
世界につながる日本海側の拠点として、国内の災害にも強い物流ネットワークの一翼を担うことのできる



地方において、人口減少による地域経済の縮小、地域経済の縮小による人口減少の加速といった負の連鎖に陥るリスクを回避するには、観光による地域産業の振興や企業の地方移転を推進し、雇用の場を確保するなど、地方への新しい人の流れをつくる必要があります。そのためには、歴史や自然など豊かな観光資源等、圏域の多様な地域資源を有効に活用した産業振興、交流人口の拡大や安心して暮らせる地域づくりなどを推し進めるインフラの整備が不可欠であり、圏域 8 の字ルートは圏域の地方創生を力強く進める前提となる地域間ネットワークの基盤です。